

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく生活が送れるよう従来の理念に地域密着型サービスの項目を追加している。	<input type="radio"/>	理念を入れたパンフレットに作り変えた。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月曜日の朝礼時に理念を唱和し、確認をしている。職員全員に理念の周知と理解を図り、会議でも理念の実現に向けた話し合いを持っている。	<input type="radio"/>	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族が来訪された時には、説明を行っている。地域の方にも、内覧会や見学の際お話しさせていただいている。	<input type="radio"/>	当事業所の理念をお伝えしているが、地域の方にどのくらい浸透しているかは分からず、これからは行事内には積極的に伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩を行っている際に、近隣の方が声をかけてくださり、お茶を飲みながら会話が楽しめるようになってきた。お寄りくださいとお声をかけ、実際にいらっしやう頂けるようになってきた。	<input type="radio"/>	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	石岡市のひな祭りや中学生の吹奏楽の演奏会を見学に行ったり、行事では餅つき、漬物教室、納涼祭に地域の方がお見えになり、参加されている。	<input type="radio"/>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>中学生の職業体験（男子2名、女子4名）、専門学生（女子1名）の介護職員基礎研修を受け入れている。また、石岡市シルバーリハビリ体操指導士会による健康体操を月1回、ホームにて開催している。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価表をコピーし職員へ渡し、私たちに求められているものを理解してもらうために取り組みを記入してもらった。</p>	<p>○</p> <p>外部評価を有効に活用する為に、その意味や私たちの役割を伝え、よりよいケアにつなげられるようこの自己評価を今後の取り組みに活かしていきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で、前回の評価の報告を行った。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>経営者は市役所へ行き相談や助言をいただいている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在は、後見制度を利用している方いない。機会があれば、成年後見人制度の説明をしたいと思っている。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待は暴力行為だが、言葉での暴力もある事をミーティングの時に職員にはなしている。</p>	<p>○</p> <p>利用者の状況を把握し、虐待がないよう管理者、職員共に常に気をつけていかなければならないと思う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分に時間を取り丁寧に説明している。理解をした上での契約となっている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者本位の運営を心がけ、管理者は、出来るだけ利用者と会話や行動を共にし、利用者の行動や言動から思いを察する努力をしている。利用者からの苦情や意見は、その都度ユニット内で話し合いをしている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月1度はホームだよりと写真等をご家族に郵送し報告している。訪問時には利用者の近況報告をおこなっている。電話連絡をおこない利用者の近況の報告を行っている。病院受診や買い物等、ご家族へ連絡し説明を行っている。	○ ホーム便りはゆうもあ館独自のものを発行し、ご利用様全員が元気な姿を見せられるよう写真にも気配りしている。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会は無いが、ご家族の方には何でも言ってもらえる雰囲気作りをしている。意見や苦情に関してユニットで話し合い、反映できるよう努めている。玄関に投書箱をもうけている。	○ 投書箱の利用の仕方や説明また、アンケート内容について見直していきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	全体会議の時に職員の意見や要望を聞いている。ミーティングや休憩時間を利用して話し合いをしている。出た意見や提案は、個人と話し合いを設けて改善していけるよう努めている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	職員の急病などで休みを取らなければならない時は、職員と話し合い調節している。利用者の状態により早番や遅番の対応できるようになっているが、現在は、日中の活動を優先しているため、日勤へ人員を多く配置している。	○ 利用者の状態に合わせた柔軟な対応をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入職した時には必ず利用者様一人一人にご挨拶し、顔と名前を覚えていただくことから始めている。地理的な要因もあって求職希望は少ない。	○	専門学生の実習受け入れや職員の知人からの紹介や地域の方からの紹介で入職された方もいる。異動や離職を最小限にし、職員は出来るだけ自社採用できるようにしたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時、介護マニュアルを渡し認知症の理解をもらえるよう、職員と話し合いも行っている。3ヶ月目に業務達成度のチェックを行っている。研修は機会があれば出席できるようにしている。研修の報告は、全体会議で行い、会議録はいつでも閲覧できるようになっている。	○	認知症介護実践者研修へ2名参加ができた。他の研修に関しても、出来るだけ参加させたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流をする機会をもっている。7月に食事会を行い情報交換を行った。また、今年度内にも交流会を予定している。	○	職員同士の交流を目的にボーリング大会を予定している。勉強会や職員の実習も今後予定していきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の休憩時間を十分にとれるようになった。休憩室にソファを設置し足を伸ばせる工夫を行った。休憩時間の際、職員と話をする機会を持ち職員のストレス軽減に努めている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	経営者は職員へ構想を折を見ては話をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学の際にご家族の方と話し、不安なことや介護保険についての説明及びサービスについて話している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来訪時や電話連絡をこまめに行い、ご家族の方と信頼関係が築けるよう努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在実績はないが、介護保険のサービスにもいろいろあることなどをお話している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所などを利用し、納得して利用していただけるよう取り組んでいる。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という一方的なケアではなく、経験豊富な利用者から教えていただく場面が多い。共に支えあう関係作りを心がけている。種まきの仕方や山菜の調理の仕方、掃除の仕方など	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いに寄り添いながら、利用者の様子を報告し情報を共有している。本人を共に支えていく関係が築けるよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者のご家族の思いを理解したうえで、来訪や外出を勧めている。利用者の様子を連絡し、関係が途切れないよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に住んでいる知人の来訪や、遠方の友人や知人からの電話や手紙のやり取りが定期的にある方もいる。		契約時やご家族の来訪時に、知人の情報を得ている。逆に会わせないで欲しいとの要望もあるため、慎重に対応していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用様者同士の人間関係の把握に努めている。気の合う同士での外食や外出を行っている。職員間でも情報の共有を図り、ご利用者様同士の人間関係が円滑にいくよう配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅に帰られた方には、忘れ物を届け日常の様子をお伺いしたり、他事業所に移られた方には、何かあれば連絡をしていただくよう話をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって何が必要なのか、どう思っているのか日々の関わりあいで把握するようにしている。困難な場合は表情や行動また、家族や関係者から情報を収集し把握に努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の把握は、本人から伺ったりご家族の方から伺い把握している。折に触れ本人に聞いたり、来訪時に伺っている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の生活のリズムを把握できるように職員間で情報共有をしている。行動や表情など小さな変化に気を配り、その人全体の把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン会議へ出来るだけ、ご家族様にご出席いただけるようお願いしている。ご出席いただけないご家族には、来訪時に近況報告とご要望をお尋ねしケアに活かせるようにしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人やご家族の要望に応じておこなっている。心身の状態が変化したときも期間に関係なく介護計画を見直している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録へ気づきや状態変化を記入し職員間の情報を共有している。また、利用者の申し送りを作ってより細かい情報の共有とケアの統一を図っている。	○	職員全員が記録の大切さを理解し、個別記録を基に介護計画の見直し、評価ができるようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ターミナルケア、外泊の支援、通院介助、外出支援、ご家族来訪時の駅までの送迎など状況や希望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方（国府地区）へは内覧会を行い協力をお願いした。中学校の職業体験、吹奏楽の演奏会や発表会への参加を行っている。ボランティアによる踊りの会、健康体操、行事への協力をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険以外のサービス、公民館活動や石岡市シルバーリハビリ体操等を利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターのケアマネージャーにお願いをしグループホーム交流会がもてるようになった。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	以前より、病院との連携はお願いしてあったので、受診まではスムーズにできた。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	今後も看護職の必要性があるので、確保していかなければならない。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	認知症の方の医療機関の受け入れが困難なところが多い。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	終末期のあり方について職員教育をすすめていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	本人や家族の意向をふまえ、安心して納得した終末を迎えられるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>それぞれの家庭の事情を踏まえ、病院等に入院している方には最低でも1回はお会いし、ご本人とご家族で見学をしてからの入居をしていただいたり、在宅の方へは、入居者様と一緒に自宅へ訪問し、顔なじみの関係を作ってから入居をすすめている。緊急の場合は、情報交換のみですぐ入居になることもあり、完全とは云えない。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	本来ならば、入居者様と食事を摂るのが基本であるが、食事介助者の増加があり、やむえず食事を一緒に摂ってはいない。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	気持ちよく排泄していただけるよう、利用者の気持ちや立場に立ち、羞恥心への配慮や清潔がたもてるよう努めていきたい。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		得意分野の仕事は利用者へお願いしている。農作業をされたり、掃除を手伝っていただいたりしている。個人に合わせた出来る範囲での作業をいただいている。温泉へ行ったりお芝居を見に行ったり気分転換が図れるように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者は、自分で購入したい物を自分で決め支払いを行っている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に副って、日常的に散歩や買い物ドライブ、お弁当を持参し戸外に出かけ、季節を肌で感じていただき、気分転換を図っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望がある時は、実現するために職員ではなしあったり、ご家族に相談し支援している。	○	泊りがけの外出はないので、計画していきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望があれば電話をかける支援をしている。	○	手紙のやり取りはないので支援していきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来訪していただけるように、来訪時には利用者と家族が楽しく過ごせるように努めている。来訪の間があいているご家族には、電話連絡で近況報告を行い、来訪の日程を確認している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するポスターを休憩室へはり、職員がいつでも見れるようになっている。身体拘束は行っていない。	○	身体拘束はどういったものか、職員と話し合っていきたい。身体拘束がない現況を維持していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	消防署の救急講習を全職員がうけ、緊急時の対応ができるようにしたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	戸外にでる機会が多い為、ご家族にはリスクについて話し合いをしている。楽しく、生きがいのある生活が送れるよう十分に話しをし、理解していただけるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定と声かけをおこない、体調変化を見逃さないよう、早期発見を心がけ、変化がある時はバイタルチェックを行い、状況により医療機関へ受診している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者のお薬情報はケース記録へ保管し、職員が把握できるようにしている。ユニットへ薬の名前と効用について一覧表を作成し、確認できるように工夫している。服薬時は本人へ手渡しし、服用の確認をしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維が多い食材を取り入れたり、運動や水分補給を行い自然排便を促せるよう努めている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがいや歯磨きの声かけを行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をチェックし、職員が共有している。糖尿病の方がいるので、盛り付けを工夫して摂取量に注意しながら満足感が得られるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症のマニュアルを作り、いつでも読めるようにしてある。インフルエンザは家族の同意を得て職員と利用者は予防接種をおこなっている。食中毒に関しては、情報を収集ミーティングなどで話あっている。冬季は加湿器を設置し湿度管理をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まないた布巾は毎食後漂白している。調理器具や台所や床は当番を決め清潔、衛生を心がけている。新鮮な食材を使用し、食材の残りはメモを貼ったり、申し送り使い切るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	柵や塀を作らず、気軽に立ち寄っていただけるようにしている。建物周辺に花を咲かせたりして、明るい雰囲気を作れるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	鍵をかけないので、窓を開けると鳥の声や、気持ちいい風がはいてくる。調理の際の音や匂いはうるさすぎないように配慮している。室内の飾りつけは、利用者の作品を飾ったり、何を飾るか相談をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	網戸を取り付けることが出来る部分には、網戸を入れた。写真類は整理し、飾りをシンプルにするよう心がけた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	○	使い慣れた家具の設置が無い ため、写真やここでの生活のなか で、本人と作った物を飾り、本人 らしさがでるよう工夫している。 使い慣れた物を家族と相談し少 しずつ設置していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気 のよどみがないよう換気に努め、 温度調節は、外気温と大きな差 がないよう配慮し、利用者の状 況に応じてこまめに行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を 活かして、安全かつできるだけ自 立した生活が送れるように工夫し ている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、 混乱や失敗を防ぎ、自立して暮ら せるように工夫している	○	決め細やかに対応できるよう、 にしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者 が楽しんだり、活動できるように 活かしている	○	利用者の個人の好みに合わせた、 花やスペースを増やせるようにし ていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日中は鍵をかけず外へ自由に行き来できるようにしている。自然環境を活用し、楽しみながら利用者それぞれが生活を楽しめるよう支援している。